

福島復興知学の深化と展開 ミルフィーユ型人材の育成基盤構築

事業概要

2018-2020年度の復興知事業を通じて、我々は学内ネットワークの構築と浜通り東大拠点ネットワークを構築し、福島復興知学とイノベーション・コースト構想を推進するための基盤を構築した。本事業では、上記の成果を深化させることで、福島の創造的復興に貢献できる人材を浜通り内外に育成する（重層的なスキル・知識を獲得した人材「ミルフィーユ型人材」を育成する）。また、後述するエコ・ミュージアム構想等を推進することで他の復興知事業・浜通り市町村と連携を強化して、事業を面的に展開・発展させる。

5年間の人材育成目標

【地域を担う未来人材の育成】

各ライフステージに応じた多層的教育を経て真の復興を担える多様な人材を育成する。

1. 復興知未来人材育成プログラム

連携する市町村の小中学生を対象に、出前授業や科学教室を通じて、復興知と大学値を有機的に学んだ地元の若年人材を育成するプログラムを開発して実施する

2. 復興知リーダー育成プログラム

自治体職員向け、企業向け、一般市民向けに地域内のリーダー育成プログラムを実施する

3. 放射線利活用人材の育成プログラム

福島高専の学生および地元企業の社員を対象に、放射線利用に関する国家資格である放射線取扱主任者の資格取得をサポートする

今年度の活動内容と課題 ①地域の創造的復興を担う人材の育成

1. 復興知未来人材育成プログラム

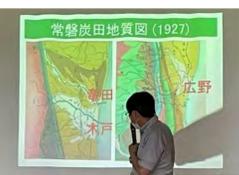
◇科学教室・出前授業・エコミュージアム

「化石は語る・・・」2021年7月31日

東京大学総合研究博物館の准教授佐々木猛智先生を講師として市民向け講演会『化石は語る・・・』を檜葉町コミュニティセンターで開催。東京大学の有する貴重な化石資料の実物を紹介しながら、太古の生物に関する最新の知見を説明した。

「言葉の魅力を学ぶ・楽しむ」2021年11月13日

東京大学落語研究会による公演『言葉の魅力を学ぶ、楽しむ』を檜葉町コミュニティセンターで開催。落語公演やワークショップを通して、言葉の面白さを学ぶ企画である。



化石は語る・・・の講演の様子



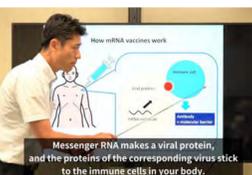
言葉の魅力を公演する東大落語研究会



福島高専での本の展示



新型コロナセミナー



多言語でワクチンに関する動画を作成

②福島を舞台として、世界的視野で福島の発展を支える人材の育成

1. 浜通りエヴァンジェリスト人材育成プログラム

「福島復興知学講義」2021年4月～7月

福島復興に関する体系的講義を東京大学教養学部生に実施（40名の履修）。

「福島復興知フィールド学習」2021年10月1～3日

東京大学の学生14名と福島高専の学生5名が富岡町で震災に関するフィールドワークを実施。福島第一原子力発電所・廃炉資料館・中間貯蔵施設・帰還困難区域・東日本震災原子力災害伝承館の見学、被災語り部の方からの聞き取り、飯館村における復興学習に取り組んだ。



土壌の中間貯蔵施設を見学



語り部の方から当時の様子を学ぶ



東大と福島高専の学生計19名が参加



農地の見学、稲刈り体験

2年目の事業内容及び取り組みの方向性

1. 復興知未来人材育成プログラム

地元自治体・教育機関・連携企業等からのフィードバックをもとに、プログラムをブラッシュアップして実施する。また、地元からの要望をもとに、新しい取り組みにもチャレンジして、より効果の高いプログラムを実施する。

2. 復興知リーダー育成プログラム

2022年度に檜葉町コミュニティセンター1階に檜葉町と東大博物館との共同展示「ならば新ミュージアム（仮称）」を開館する予定である。来年度からは、このミュージアムを活用し、エコ・ミュージアム構想を題材とした自治体職員の教育プログラム（地域の魅力発見、地域の公報に関するプログラム、民間企業と協力したプログラム）を実施することを計画している。

3. 放射線利活用人材の育成プログラム

2022年9月12日～16日に放射線化学国際学会APSORC22が福島県郡山市で開催される（世界20か国以上、参加者400名以上）。このAPSORC22のサテライトシンポジウムを浜通り自治体に誘致し、市民講演会、地域の若者との交流事業、地元施設の視察を実現することで、他のプログラムとも有機的に連携した人材育成のプログラムを実施する。

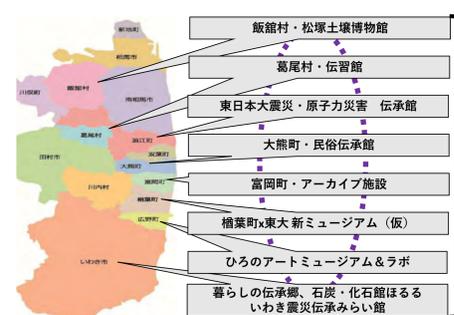
4. 浜通りエヴァンジェリスト人材育成プログラム

東京大学と福島高専で実施する教育プログラムをさらに充実して実施する。特に、福島復興知フィールド学習に2021年度よりも多くの学生を参加させる。APSORC22浜通りサテライトシンポジウムを活用した国際的情報発信も行う。

5. 放射線利活用人材の育成プログラム

東京大学と福島高専で協力して、高度な放射線研究を実施し、人材育成と産業育成に対して更なる貢献を果たす。

市町村との連携体制の構築



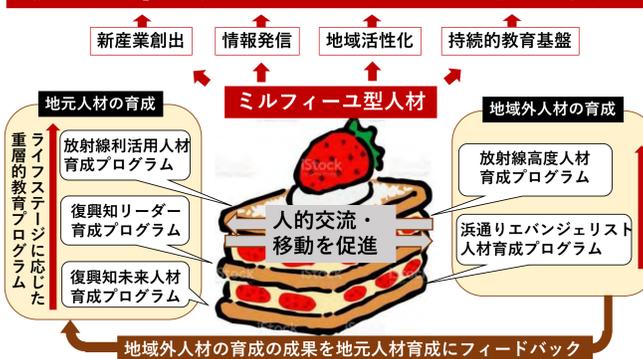
エコミュージアム構想の連携（浜通りミュージアムロード）

◇多施設連携によるエコミュージアム構想◇
浜通りに所在する多様な資料館等が連携し、地域の文化的活動・教育的活動の依り代・ゆりかごとして機能することを目指した取り組み。自治体間の「架け橋」としても機能。

具体的には、浜通り広域に所在する施設等（左図参照）の連携を実現し、そのうえで復興知事業に参加する大学等（東京大学、早稲田大学、福島高専など）も連携して、アート&サイエンスワークショップ、科学教室、市民講演会、大学生等のフィールド実習、などを実施する。

上記活動に地元の自治体と企業も巻き込むことで、自治体の広報戦略・観光資源開発、企業によるデジタルコンテンツ開発にも貢献する。このように、「創造的復興」の基盤とする。

「福島ならではの」人材によるイノベーション・コースト構想の持続的発展



【世界的視野で福島の発展を支える人材の育成】

浜通りでの「まなび」をもとに学術文化を推進し、世界に情報発信できる人材を育成する。

1. 浜通りエヴァンジェリスト人材育成プログラム

東京大学の大学生と大学院生を対象に、福島に関する正しい情報を理解し、国内外に情報発信できる人材を育成する

2. 放射線利活用人材の育成プログラム

福島高専の本科と専攻科、福島大学と東京大学の大学生と大学院生を対象に、放射線に関する正しい知識と技能を有し、国内外に情報発信できる人材を育成する

2. 復興知リーダー育成プログラム

◇地域の魅力発見・発信プログラム

檜葉町と東京大学が連携し、大学が蓄積した「知」を展示紹介する展示企画を実施するため、毎月研究会を実施。この研究会を通じて、自治体職員による教育事業・観光産業の立案に取り組む。

◇産業育成セミナー（製品化研究会）

福島高専の芥川先生を講師として、地元産業育成の基盤となる金融知識のセミナーを実施（10月13日）。

◇復興知市民講演会

いわき市植田公民館で新型コロナウイルスに関するセミナーを開催。科学的根拠のある情報を正しく理解することを学ぶ（10月22日）。ワクチンに関する説明動画を日本語・英語・韓国語・中国語・ベトナム語・ミャンマー語の6言語で作成。

3. 放射線利活用人材の育成プログラム

◇実務的な放射線教育プログラム

福島高専生を対象に東大講師陣が特別講義（4回）を実施予定。

「書籍展示プロジェクト」2021年11月～

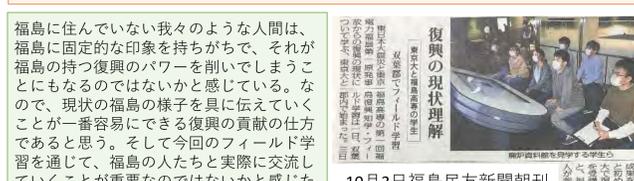
東京大学消費生活協同組合書籍部・東北大学消費生活協同組合書籍部の売り上げデータを元に、大学でよく読まれる書籍を浜通り自治体（檜葉町・広野町など）、学校等（いわき市の高校等）で展示する。また、地元の小中高高校生と大学生との書評交流を行う。出前授業・エコミュージアム事業として実施。

◇11月以降に実施予定のプログラム

- ・ロボ・ドロー研究会
- ・言葉ワークショップ
- ・ドローン運動会
- ・化石発掘ワークショップ
- ・空を飛ぶ本屋プロジェクト
- ・笑いと健康セミナー

本学習では福島の魅力や課題などについて、事前事後でのアンケート調査を実施した。ここでは事後アンケートの一部紹介する。尚、アンケート内容の発表については全回答者の同意を得ている。

第二回があればぜひ参加したい。全体的に今回は復興の現場を知ることがメインだったと思うので、次回は復興の前に進めるような見学や体験をしてみたい。高専生とあまり交流を持てなかったと感じるので、もっとディスカッションの機会などがあれば嬉しい。何か復興に貢献できることがあれば、と思うので、高専生とコラボして自分たちでイベントを開催しても面白いかもしれない（コメリなどを利用して）。若い世代の震災への取り組みにももっと触れてみたい。何があるかはわからないが、南相馬市も訪れてみたい。



10月3日福島民友新聞朝刊

福島復興知フィールド学習の内容を動画でご覧いただけます。

「国際ワークショップ」2021年12月中旬予定

福島復興に関するオンライン国際WSを実施予定。

2. 放射線高度人材の育成プログラム

東京大学薬学部、農学部で放射線に関する講義を実施。東京大学アイトープ総合センターで、環境放射線と放射性医薬品開発に関する最先端研究を実施。これらの研究は東京大学放射線科学連携研究機構に参加する教職員とも連携して実施。

◇東京大学副学長による福島訪問◇

10月27日に東京大学津田副学長が福島を訪問し、エコミュージアム展示事業の取り組み状況の視察、松本檜葉町町長との面談を実施。また、鈴木正晃福島県副知事と面談し、復興知事業に対する取り組みについても紹介。



松本町長、鈴木副知事との会話の様子（上段）博物館所蔵資料の視察（下段）

5. 放射線利活用人材の育成プログラム

東京大学と福島高専で協力して、高度な放射線研究を実施し、人材育成と産業育成に対して更なる貢献を果たす。

